



No.87

2021. 12.1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- ネパール「幸せ分かち合いムーブメント」..... 1
新たな地域でロールモデルづくりをスタート
- 多文化共生講座「共に生きる地域をめざして」..... 2
- ラオス現地報告 3
- 新理事紹介 3
- インフォメーション/活動日誌 4
- 編集後記 4

ネパール「幸せ分かち合いムーブメント」 新たな地域でロールモデルづくりをスタート

地球の木設立30周年の記念すべき年に、私たちはネパールのパートナーNGO・SAGUNと共に
ロシ地域での成功例をバネに、新たな支援地で「質の高い教育」に特化したプログラムを展開します。

地球の木の設立30周年おめでとうございます。

地球の木とSAGUNは、ロシ地域で15年にわたって「幸せ分かち合いムーブメント」を実施してきましたが、それは、地球の木とSAGUNが『開発』に対する理念を共有していたからです。「開発は、ただ、便利さを増すためのものではなく、人々を幸せにすることに貢献するべきである」という考えです。ですから、ロシ地域で行ってきた、私たちのプログラムは「開発プログラム」ではなく、「幸せ分かち合い」と呼ばれました。村の人々とよい関係を築き、初めの一步から「参加型アプローチ」を行ってきたので、村の人々は私たちを「開発を施してくれる人」としてではなく、幸せ、時には悲しみを分かち合う真のパートナー、家族の一員と思っています。



そんなロシ地域での15年にわたるプログラムを地域の行政と地域の人々にハンドオーバーして、新たな地域、インドラサロワール農村自治体(以下、IRM)に拠点を移すことにしました。ここは、マハンタさんと私が10年来、ボランティアとして地域作りに関わってきた村です。幸い、行政の首長以下モチベーションが高く、すでに良い人間関係が構築されているこの地域で、ロシ地域で培ってきたノウハウや創ってきた参加型のロールモデルを、今度は初めの一步から行政と力を合わせて、より良い活動にしていくことが、私たちの方針です。

SAGUNがパートナーシップを組む時の基準は、① 私たちがよりよく知っているコミュニティであること、② 私たちの支援を本当に必要としているコミュニティであること、③ 私たちに支援してほしい、一緒に活動してほしいと依頼してくるコミュニティであることですが、IRMは上記の3つの基準を満たした地域です。

現在のIRMは、残念ながら、教育面ではステータスが低い地域で、若者たちの多くが仕事を求めて他所に行かざるをえない状況です。SAGUNはここで「質の高い教育」を行い、新しいシステムに若者たちが参画できるような場を創ることを目指し、良きリーダーを育成します。役人の理解を深め、地方行政と力を合わせながら、よりよい活動をしていくことが、私たちの方針です。私は、IRMの地方政府と一緒に活動してきましたので、IRMと一緒に仕事をする上での適切なパートナーであり、きっと若者たちの開発への考えを「経済的な要素」から「幸せを分かち合うこと」に替えることに貢献してくれるよきパートナーであると考えます。私たちがロシで学んだことをIRMで再現したいのです。まずは、地域に溶け込み、地域のパートナーと計画を作って、5年後には、ロシのように地方政府にハンドオーバーできるよう共に力を合わせて、新たなロールモデルづくりをしましょう。

IRMにはとてもきれいな湖があり、人々がピクニックに訪れるような地域です。地球の木の皆さんもコロナが収束したら、ぜひ遊びにいらして下さい。(SAGUN理事 カマル・フヤル)

連続講座2021第1回多文化共生セミナー(7/31オンライン開催)

共に生きる地域をめざして

今年度は、支援する側の方々を招いて連続講座を開く計画を立てました。第1回の講師は、「かながわ外国人すまいサポートセンター」理事長の裴安(ペイアン)さん。東京生まれ、東京育ち、横浜在住39年の在日コリアン2世です。外国人支援だけでなく、生活困窮者自立支援事業にも深く関わっている裴さんに、神奈川県ならではの様々な取り組みや、私たちが知っておくべき外国人の状況などについて話していただきました。

地球の木との出会い

講演の冒頭、「地球の木との出会いはシヨッキングでした」と話されました。というのは、20数年前に神奈川県の会議に参加した時、当時地球の木理事長だった横川さんから、「南北コリアと日本のともだち展」のチラシを渡されたからです。「ともだち展」は、地球の木が実行委員会に参加している、子どもたちの絵画展です。毎年ピョンヤン、ソウルの子どもたち、そして在日コリアンと日本の子どもたちの絵を集めて展覧会を開き、出会う場を作り、北東アジアの平和を目指すこの活動は今年20周年を迎えました。このような大胆な企画を日本のNGOがやっていることに大変驚かれたようです。裴さんの話の中で一貫していたのは、マイノリティ自身が頑張って権利を守り支えていくだけでなく、行政も含んだ様々な分野の人たちと共に行動し、市民を巻き込んでいく必要があるということで、この出会いが地球の木との接点となりました。

「かながわ外国人すまいサポートセンター」の誕生

「内なる国際化」、そして多文化共生に力を入れていた神奈川県は、1998年に「外国籍県民かながわ会議」と、「NGOかながわ国際協力会議」を設置し、県に提言する仕組みを作りました。裴さんは外国籍県民かながわ会議第1期に委員として参加しました。さまざまな提言が出された中、最も必要とされていたひとつが、住居の問題でした。提言にはこのように書かれています。

居住支援システムの整備について

▶ 提言11:言葉や生活習慣の違いから起こるトラブルに対応するため、外国人への賃貸住宅の紹介や多言語による情報提供・苦情相談体制を整備する。

▶ 提言12:居住支援システムの検討にあたっては、外国人に限らず、高齢者や障害者なども視野にいれた、外国人も日本人もともに生きるための施策の実現を目指す。



地球の木のスカーフをつける
ペイアンさん

外国人は日本人の生活をよく知りません。敷金・礼金という習慣や、退去時のルールが特に分かりにくく、トラブルが多く発生します。一方、不動産業の側にしてみれば、外国人に貸すことに不安がありました。そのため、5言語でマニュアルを作りました。住まい以外にもさまざまな相談が持ち込まれます。そこで、相談を受ける場所を横浜YMCAの2階に設置し、2001年3月に「かながわ外国人すまいサポートセンター」が設立されました。

スタッフは最低2カ国語話せますが、専門家ではないので、相談事はそれぞれ専門機関に相談するようにしています。まずは話をよく聞くことを第一としていて、個人的に対応するのではなく、チームを組んで解決にあたり、不動産店につなげる前までの支援をきちんとしてから家探しにかかります。

「外国人問題」とは？

外国人問題というと、一般的には、ルールを守らない、犯罪率が高い、騒がしいなど、よくないイメージが先行します。しかし、「本当の問題は、日本の経済や産業発展のために移り住んだ外国人が人間としての権利が守られていないこと」と裴さんは言います。外国人が問題なのではなく、受け入れる私たちの問題であるということに、この講座の中で気づいた人が多くいたことと思います。「共に生きる地域をめざして」一緒に進んで行けたらと改めて思いました。

参加者からの感想

参加者からは、「外国籍の人が住まいを借りる時の大変さは聞いていたが、住まいだけでなくありとあらゆる相談が持ち込まれ、相談されたことは断らないという。行政、業者、市民団体が協力するのは他県では考えられないとか。神奈川県の良いところも知った」、「外国人と日本人の違いは、基本的な権利が保障されているかいないかという視点。これがとても大切」ほか多くの感想が寄せられました。

(多文化共生の地域づくり準備会 丸谷 士都子)

サワンナケート県でのプロジェクトを終え、次の活動へ

帰国中のJVC(日本国際ボランティアセンター)駐在員山室良平さんのオンライン報告会が、10月9日に開催され、2018年3月から2021年9月までの「サワンナケート県農村部住民による自然資源の管理・利用支援プロジェクト」の報告と今後の計画への抱負が示された。

プロジェクトを振り返って

①計画開始当初の目標値を概ね達成

村人による自然資源の管理・利用のための仕組みづくりとして、コミュニティ林を2村に、魚保護地区を4村に設置し、自然資源に関する権利や法律の研修等を行った。これにより村人の自然環境への意識が高まり、ジェンダー研修では、男性の家事参加、女性の意思決定の場への参加など好ましい変化が見られた。その他数々の農業技術研修も行い、一定の成果を得た。

②記録資料の作成

全10村の歴史、地図、村境、川や森の指標生物リストなどの基礎データをまとめた冊子を作成し、住民に配布、大変喜ばれた。今後このデータ本が、村人自身が村の土地や自然資源を外部者から守るために有効に活用されることを期待している。

③「常に村人の側に立つ」という活動の意義

JVCは活動地の経済発展のみを目指すのではなく、ラオスの昔ながらの暮らしの価値を見直し、自然資源の保全を村人と共に粘り強く続けてきた。そういう活動をしているNGOは数少ないとのこと。

JVC新規プロジェクトについて

新しい活動地は南部の最貧困県セコン県。現地ではすでに、外国資本のプランテーションでゴム栽培が行われ、さらに、村の共有資源とされる、占有者のいない土地が、住民によって私有のキャッサバ*1(現在ブームの換金作物)の畑に変えられ広がっている。一方で、こういった際限のない傾向に危機感を抱き、

村の貴重な共有資源を守り維持していこうという、住民の主体的な動きも生まれてきている。

前活動地では、村人が外部からの不当な収奪に対抗できる力をつけることに注力してきたが、今回の新規プロジェクトでは、それに加えて、現地の村人たちの意識の高まりを背景に、より主体的参画につなげる活動を推進していく。「生活のために自然資源を喪失する現実」と、「持続可能な暮らしのために、共有自然資源を保全することの重要性」との折り合いをどのようにつけていくか、村人と共に考える活動を行っていく。まずは10村を選定して、2年計画で始めていくことになる。そしてラオスの事例を、気候変動などのグローバルな課題ともつなげながら、先進国へ発信していくことも視野に入れていくという。



山室さんと「マイニャーン*2」と呼ばれる木

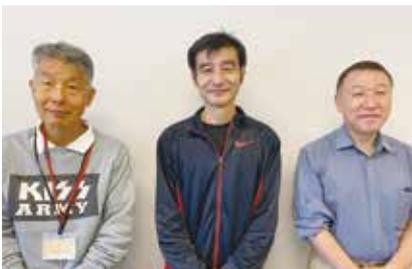
ぜひ成功させて、モデルケースとして多くの村に波及していくことを願っている。(ラオスチーム 中野 真理子)

*1 イモノキ属の熱帯低木。キャッサバ芋は、日本ではタピオカの原料として知られるが、食用以外にも世界で広く飼料やバイオ燃料としても利用されている。

*2 この木からは松やにのような樹脂が採れ、古くは松明に、今でも七輪の火起こしなどに使われている。

新理事紹介

5月に開かれた2021年度の総会で、長年活躍してきた堀千鶴さん、成瀬悦子さん、廣瀬康代さんの3名が理事を退き、以下の3名が新しく理事に選任されました。再任された他の7名とともに、10名の体制で理事会を運営していきます。



左から勝田さん、田中さん、山田さん

●勝田文隆さん

2010年より8年間タイ国に住み一般の仕事をしておりました。その時カンボジアやラオスそしてネパールに足を運び、その国の文化、音楽、食事に接し地元の人々と交流してきました。現在ネパールチームに属し、ネパールの最新情報を共有したり、翻訳のお手伝いをしています。今後はホームページの作り替えや「地球の木」を電子媒体で伝える仕事でお手伝いします。

●田中浩平さん

青年海外協力隊員としてネパールで活動していたことがあり、帰国後もネパールとのご縁が続いています。今まで、開発教育教材『マジカルバナナ』

のワークショップやイベント・講座など参加させていただいたことがありましたが、設立30周年という節目に理事として関わらせていただくことになり、身の引き締まる思いです。多文化共生社会を共に築いていきましょう。

●山田孝志さん

多文化共生の地域づくり準備会に参加させていただいています。これまで地球の木が継続してきたラオス・カンボジア・ネパールへの国際協力についてきちんと学び理解しつつ、それを元に、日本国内で、外国籍の人たちと、お互いに基本的人権を持った市民同士として、学びあい助け合う関係づくりに関わればよいなと思っています。



地球の木カレンダー2022 ～セカイのたからもの～

- 写真** 三井 昌志さん
- サイズ** [壁掛け] 32cm×38.5cm
(使用時60cm×38.5cm)
[卓上] 15.5cm×17.8cm×7.5cm
- 制作元** 日本国際ボランティアセンター(JVC)
- 価格** [壁掛け] 1,600円(税込)
[卓上] 1,300円(税込)
※カレンダーの収益は、地球の木の国際協力活動に使われます。



年末募金

新しい年を温かい気持ちで ～幸せ分かち合い年末募金～

皆さまの日ごろのご協力に心より感謝申し上げます。今年も残りあとわずかになりました。ネパール、カンボジア、ラオスの人たちと、幸せを分かち合えるよう、皆様からのあたたかい募金をどうぞよろしくお願い申し上げます。詳細はホームページ、または、チラシをご覧ください。

ともに考える多文化共生の地域づくり

現在多くのネパール人が日本で暮らしています。神奈川にあるネパール人コミュニティから、その現状と問題点、今の活動を聞き、共に考えます。

- 日時** 2022年1月23日(日) 14:00～16:00
- 場所** なか区民活動センター 研修室1
- 定員** 20人 **参加費** 無料
- ゲスト** ジギャン・クマル・タバさんとサブコタ・ドルラズさん
(かながわネパール人コミュニティ)

寄付領収書について

地球の木へのご寄付は、所得税等の控除対象になります。

寄附金控除は、地球の木が発行する「寄附金受領証明書」(領収書)を添えて、確定申告することで受けることができます。2021年の領収書は確定申告に間に合うよう、2022年1月下旬にお送りいたします。

また、地球の木ではサポート会員の会費も寄付金控除の対象となります。サポート会員の会費はお申し出いただいた方のみ領収書をお送りしております。必要な方は事務局までご連絡ください。

活動日誌(6月～11月抜粋)

- | | |
|--|---|
| <p>6月</p> <p>12日 鎌倉女学院高等学校出前講座
19日 第1回通常理事会
18～19日 東戸塚デポー展示会
22日 かわさき生活クラブ出前講座</p> <p>7月</p> <p>17日 町田市立真光寺中学校出前講座
24日 第2回通常理事会
31日 第1回多文化共生セミナー
講師:ペイアンさん(かながわ外国人すまいサポートセンター)</p> <p>8月</p> <p>7日 ミャンマー緊急オンライン学習会
講師:木口由香さん(メコン・ウォッチ)
28日 第3回通常理事会</p> | <p>9月</p> <p>25日 第4回通常理事会</p> <p>10月</p> <p>9日 JVCラオス報告会
報告:山室良平さん(JVCラオス駐在員)
17日 あーすフェスタ
23日 第5回通常理事会
26日 緑園デポー展示会</p> <p>11月</p> <p>7日 鎌倉国際交流フェスティバル
26日 東戸塚デポー展示会
27日 設立30周年記念 地球の木講座
ゲスト:三井昌志さん(写真家)
30日 南林間デポー展示会</p> |
|--|---|

デポー展示会

- 12月7日(火) つなしま
- 12月13日(月)～14日(火) ひらつか西海岸
- 1月18日(火) 東寺尾
- 1月25日(火) せや



◆前号30周年記念号で精根尽きたというわけでもないのですが、今号はコンパクトにまとめました。連日、コロナ感染者数が減少に転じ、このまま収まると考えるのは楽観的過ぎるかとも思いますが、次号では活動も徐々に増え、従来通りの会報誌をお届けできる事を願っています。



特定非営利活動法人
地球の木